

図書館の窓から



2014.1 No.143



越路の石仏「十一面観音」 鈴木 孝枝/手漉き和紙にプリント

【特集記事】

◆私の一冊 形成外科医 星 榮一 さん 3p

◆開始から10年! ブックスタート 4~5p

館長通信

～ 図書館の設置及び運営上の望ましい基準 ～

毎年、文部科学省と筑波大学主催の新任図書館長研修が開かれています。今年度は9月に行われ、私も参加しました。

講義では、図書館長として目を通しておくべき資料として、「図書館法」「図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年)」「これからの図書館像—地域を支える情報拠点として—(平成18年)」「ユネスコ公共図書館宣言(平成6年)」が挙げられました(各自治体で定めている図書館条例や図書館運営

規則、各図書館で決めている運営方針などを熟知していることは当然という前提です)。

特に重要とされたのは、図書館法に基づき定められた図書館の設置及び運営上の望ましい基準でした。この基準では、市町村立図書館のサービスを五つに分け、その一つに地域の課題に対応したサービスを挙げています。具体的には「就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報」「子育て、教育、若者の自立支援、健康・

医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報」「地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報」の整備・提供に努める、としています。

中央図書館は、どのような資料を充実させるか。まずは市民ニーズをしっかりと捉え、その上で長岡らしい資料及び情報の整備・提供を検討し、取り組む必要があると考えています。

(金垣 孝二)

文書資料室だより

互尊文庫の展示コーナーを活用

文書資料室では、互尊文庫東口(明治公園側入口)ロビー展示コーナーにおいて、所蔵資料や災害アーカイブス、『長岡市史双書』等の刊行物、その他、季節に合わせた資料をピックアップして紹介するなど、年間をとおして、工夫を凝らした展示を行なっています。現在は、「北越雪中実景」(写真パネル)を全点展示しています(平成26年2月末まで)。

「北越雪中実景」は、二代目片山翠谷と片桐遜堂によって描かれた画集です。明治18年(1885)京都東本願寺の大谷殿下北越巡遊の際、長岡の冬の暮らしを紹介するために、雪中の様々な場面を選び、描いたものです。

片山翠谷は、初代・二代ともに長岡町同心をつとめるかたわら、長岡城下の風景や風俗を描き、多くの作品を残しました。現在の燕市出身の片桐遜堂は、三条

や東京で画を学び、明治12年に長岡に移り住みました。「北越雪中実景」には、翠谷の画が3点、遜堂の画が3点、収められています。描かれてから百二十余年が経ち、多少の虫損はありますが、どれも鮮やかな色彩が残っています。

雪合戦をする阪之上小学校の子どもたち(写真1)。積雪に隧道を開けて往来する人々(写真2)。桜や桃、椿やつつじなど色とりどりの花を雪中の市街で売る女性。栖吉の山で伐採した木材を、大勢で蔵王河原まで曳き出す図など、雪を苦にせず、長い冬をいきいきと暮らす人々の様子が、表情豊かに描かれています。翠谷・遜堂の作品を、この機会にぜひご覧ください。

(桜井奈穂子)



写真1



写真2

私の二冊 私の二冊

形成外科医 星 榮一 さん

僕は着物が大好きで、夜の飲み会には必ず着物を着て出かけます。そうでもないに着物を着る機会がないからです。日本の民族衣装と言ったら、着物であることはどなたも否定しないと思います。しかし、街中で着物を着た人を見かけることはほとんどありません。特に男性の着物姿は皆無です。着物がかつての佐渡の朱鷺と同じような運命になって欲しくないのです。

着物を着るには昔からの約束事があります。その約束事が、この『男のきもの大全』には細大漏らさず書いてあります。しかし、あまり面倒なことは考えずに、基本的なルールだけを覚えておけば良いと思います。

この本の内容は、着物の基本、着物の種類、着物を知る、着物を着る、着物のメンテナンス、着物を買う、着物で暮らす、と「男のきもの」の必須知識を網羅してあります。500点を超える写真とイラストがあり、男の着物のすべてが解る総合着物ガイドです。

1984年、新潟に伊勢丹デパートが開店した時に、「男の着物着付け教室」が開催されました。週



星 榮一 (ほし・えいち)

1938年5月会津若松市生まれ。1965年3月新潟大学医学部卒業。1979年より新潟大学医学部附属病院形成外科講師。形成外科専門医。

著書にはいずれも分担執筆で『標準形成外科学（医学書院）』『形成外科Ⅳ 新外科学大系 第29巻D（中山書店）』『図説臨床形成外科講座6（メジカルビュー社）』など。1996年より厚生連長岡中央総合病院形成外科部長。2013年3月退職し現在は第2の青春を満喫している。

星さんは、昨年、長岡市のまちなか大学が認定した「まちキャン学士」第一号でもあります。



『男のきもの大全：ビジュアル版』

早坂 伊織／著 草思社／発行

1回、全7回くらいの連続講座だったと思います。男の着付けは簡単ですので、数回着れば覚えられます。難しいのは、仕舞う時の袴の紐の処理の仕方です。これも本を見ながら行えば出来ます。僕の着物についての知識は本書から学びました。

著者はコンピューターのシステムエンジニアでしたが、脱サラして男の着物の総合プロデューサーとして着物伝承家を名乗っています。1997年に日本最初の男の着物情報サイト、ホームページ「男のきもの大全」を開設して、現在まで続いています。昨年5月には日本橋人形町に、男のきもの専門店「イオリスク」を開店しました。また著者は、全国で「男のきもの大全会」の集まりを開催し、2005年9月には本県の十日町市でも「第7回男のきもの大全会」を開催しました。

新潟県には沢山の有名な素敵な織物の産地があります。僕はなるべく地元の織物を着るようにしています。

どなたのタンスにも1枚や2枚の親譲りの着物があると思います。是非一度袖を通して、着物に息を吹き込んでください。長岡市でも年に数回男も着物を着て、異業種の仲間と気軽に盃を傾けて楽しめる会を持ちたいものです。もちろん着物の女性も大歓迎です。



開始から10年！ ブックスタート

「ブックスタート」は、絵本を通じて赤ちゃんと一緒に楽しい時間を過ごすことを応援する取り組みとして、1992年（平成4年）にイギリスで始まりました。長岡市では、男女がともに参加する子育てを支援するために、2003年（平成15年）10月からブックスタートを開始しました。赤ちゃんが絵本と出会う場所、ブックスタートについて紹介します。

10年間のあゆみ

2000年 (平成12年)	・子ども読書年を機に日本にブックスタートが紹介される。
2002年 (平成14年)	・男女共同参画を推進する目的で、企画課を中心に、健康課・中央図書館等が連携して活動を開始。企画課が推進役となる例は全国的にも珍しく、注目を集める。 ・赤ちゃん絵本タイム試行開始。 健康センターでの赤ちゃん相談の際に健診待ちの保護者に絵本の紹介や赤ちゃんへの読み聞かせをする。
2003年 (平成15年)	6月・ワーキング会議を開催。市民と行政がブックスタートについて意見を交わす。 ・中央図書館で読み聞かせボランティア養成講座開催。66名のブックスタートボランティアが登録。 7月・「ブックスタートレター」創刊。 8月・お気に入りの絵本投票実施。 10月・17日ブックスタート開始。 心のこもったメッセージを伝える事業として、赤ちゃん一人ひとりにお話できるように1対1の体制を採用し、絵本をプレゼント。
2004年 (平成16年)	・ブックスタートの会場での貸出カードの発行と、図書貸出を開始（中央図書館）。
2005～2006年 (平成17～18年)	・市町村合併に伴い、実施エリアを拡大。
2007年～ (平成19年～)	・担当課が企画課から子育て支援を行う子ども家庭課に変更。 ・保護者の方やボランティアさんの要望を反映し、プレゼントする本を変更。 ・現在に至る。

ブックスタート10周年を迎えて 長岡市教育委員会 子ども家庭課すくすく子育て係 主査 上山 知栄子

長岡市のブックスタートは「5～7か月児赤ちゃん相談」の中で行っています。「5～7か月児赤ちゃん相談」は赤ちゃんの身長体重を測定し、育児や離乳食などの相談を行います。保護者の方は、約半年、一生懸命育児を行い、疲れが出たり、子育ての悩みが出たりしてきます。

そんな中、ブックスタートの場面は、保護者の方自身が明るい表情になります。絵本を手にし、保護者自身が親に読んでもらったことなどを思い出し、わが子にも同じように読んであげるねと話しかけている姿をみると、ブックスタートは絵本を介して親子が楽しくコミュニケーションできるきっかけづくりとなっていると感じます。

長岡市のブックスタートも10周年を迎え、上の子の時にもブックスタートを体験した保護者が増えてきています。「1人目、2人目でもいっただいて、今でも見えています。絵本を読んであげる時間をもっと作ってあげようと思いました。」という感想もあります。

今後も絵本を通じて、親子関係がより良くなり、赤ちゃんが健やかに成長することを願っています。

長岡市のブックスタートについて



●●●どんなことをしているの？●●●

赤ちゃん相談の部屋をいくつか回った最後に、ブックスタートの部屋があります。そこで赤ちゃんに絵本の読み聞かせをし、絵本を1冊プレゼントしています。長岡市のブックスタートは、長岡市健康センターのほか、各地域で実施しています。

●●●読み聞かせを聞いてお気に入りの本を選べます！●●●

絵本を手渡す時には図書館職員やボランティアの皆さんが、赤ちゃんとお気に入りの絵本の楽しさを共有することの大切さや喜びを伝えます。絵本をじっと見つめる子、絵本に手を伸ばす子、様々な反応を示す赤ちゃんを保護者の方々が温かく見守る中、読み聞かせの実演を行っています。

●●●その場で図書館の本を借りることも●●●

会場では、家族みんなで楽しめる赤ちゃん用の絵本や子育てをサポートする育児書など、たくさんのお本を用意しています。その場で図書館の貸出カードを作成することができ、本の貸出も行っています。



ブックスタートに参加していた保護者の方、読み聞かせの実演をしていたボランティアさんにお話を伺いました。



●●●保護者の方の声●●●

- ・絵本を読んでもらって、本の読み方の勉強になりました。
- ・子どもが自由に発想できるような絵本を選びました。どんなことを感じてくれるか楽しみです。
- ・読み聞かせに夢中になっている様子にびっくり。家でも読んであげたいです。

●●●ボランティアさんの声●●●

- ・ご家族に「子どもに本を読ませたくなった」と言ってもらえると嬉しくなります。
- ・赤ちゃんのかわいい様子を見るのが何よりの原動力です。
- ・気持ちがリフレッシュできて、「ボランティア」ではなく、こちらがさせてもらっているという気持ちでしています。



絵本のラインナップ 全部で5冊の本をご用意しています！



- 『ぴょーん』 まつおか たつひで / 作・絵 ポプラ社
可愛らしい動物たちが、ぴょーんとジャンプします。最後はわたしも……。一緒にジャンプしながら楽しく読める絵本です。

- 『くっついた』 みうら たろう / 作・絵 こぐま社
- 『じゃあじゃあびりびり』 まついのりこ / 作・絵 偕成社
- 『ごぶごぶごぼごぼ』 駒形 克己 / 作 福音館書店
- 『しろくまちゃんのほっとけーき』 わかやま けん / 絵 森比左志・わだ よしおみ / 文 こぐま社

絵本は中央図書館のブックスタートコーナーでもご覧いただけます。

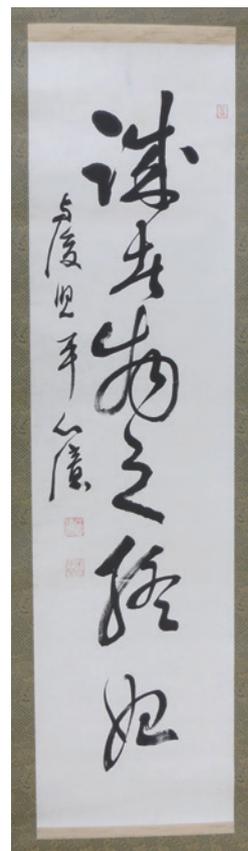
三島億二郎（1825～92）は河井継之助や小林虎三郎に比べ、有名ではありません。けれども億二郎の足跡を追うにつれ、北越戊辰戦争で敗れ、焦土と化した長岡の民が立ち上がるために、最も苦勞した人物だということに気づかされます。

青年期は長岡藩主の養子の世話役として江戸に赴き、虎三郎らとともに佐久間象山に学び、黒船の調査をするなど広い世界を目の当たりにしました。

戊辰戦争後は長岡藩の大参事となり、藩の窮乏を救うため新政府に救済の嘆願を重ねますが、なかなかはかどりません。廃藩置県の混乱下、億二郎は長岡が復興するために、人材を育てることと産業を興すことを目指し奔走します。そして長岡洋学校の開校、長岡会社病院・第六十九国立銀行の設立など、士族と町民が知恵を出し合い、生活を向上させていくよう次々と行動したのです。

紹介する書は「誠者物之終始」、読みは「誠は物の終始なり」です。これは儒教の書物『中庸』の中にある教えで、「誠は自ら成るなり 而して道は自ら^よ道るなり 誠は物の終始なり 誠ならざれば物なし 是の故に君子は之を誠にするを貴しと為す（後略）」と続きます。誠実な行いは自分の生きる道であり、ひいては世の中すべての物事に通じる。誠意がなければ何の価値もない、という意味です。裏を返せば、誠意を尽くすことでこそ叶う道があるのだ、ともいえます。

激動する近代へのうねりに身を投じ、もがきながらも果敢実行する億二郎が、心よりどころとした哲学なのではないでしょうか。（小熊よしみ）



越後文学さんぽ ～新潟出身の著者をクローズアップ～

良寛（りょうかん）（1757/58－1831）

江戸時代中期－後期の僧、歌人、書家。宝暦7/8年生まれ。曹洞宗。越後出雲崎の名主の子。備中（岡山県）円通寺の国仙の法をつぐ。のち帰郷して国上山の五合庵にすみ、托鉢の合間に詩歌や書をたのしんだ。詩集に「草堂集」、歌集に弟子の貞心尼編「蓮の露」がある。天保2年1月6日死去。74/75歳。俗名は山本栄蔵。字は曲（まがり）。号は大愚（たいぐ）。

著者紹介：『講談社日本人名大辞典』講談社より

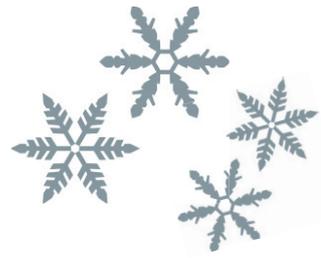


『良寛 うたの風光』
谷川 敏朗／文
小島 直／絵 鈴木出版

今回紹介する資料には、良寛の詠んだ短歌が68首収録されています。子どもを愛し、友を愛し、そして自然を愛した良寛の心情世界が、谷川敏朗氏の丁寧でわかりやすい解説と小島直氏の素朴で人間味あふれるさし絵により、読者の心に鮮明に甦ってきます。後半には、貞心尼と交わした歌も収録されています。全般的には、決して暗い歌が多いわけではないのですが、晩年の死を予感させる歌のせい、さし絵がモノクロのせい、それとも今が冬のせい、不思議と読後に寂寥感が漂います。

巻末には、谷川氏の「良寛の生涯と和歌の魅力」という評論も掲載されています。この論評を読んでから再度良寛の歌を読み返してみると、最初に読んだ時より更に、歌のひとつひとつが心に染み入ってきます。何度も読み返したい歌ばかりです。（徳永 馨）

冬を楽しむあれこれ



『スーベニール・スノードーム

世界でいちばんかわいいおみやげ』

Apila／編 コアマガジン

小さくて可愛らしい置物『スノードーム』。雪をイメージしたスノーパウダーが、ドームの中でちらちらと散りゆく様はとても幻想的です。

ポップなものから精巧なものまで幅広く存在し、世界中で愛されるスノードーム。その一部を本書でご紹介します。

本物の雪にも負けないスノードームの魅力をお楽しみください。

(大塚 望美)



『温泉めぐり』田山 花袋／著 岩波書店

寒〜い冬。日本の温泉地をガイドする図書を紹介します。明治大正期の日本が、北から南までの温泉地の様子とともに格調高い文体で語られています。現代と比べて読むのも一興です。

(高橋 真弓)



『スノードーム』アレックス・シアラー／著

石田 文子／訳 求竜堂

読み終えたときに残るのは、恐怖、闇、後悔、失望、喜び、光、希望、それともこれ以外の思いでしょうか。怖いと感じながらも主人公のエックマンに引きこまれていきます。そして、もう一度読みたくなってしまいます。

(竹野 温子)

『雪の夜話』浅倉 卓弥／著 中央公論新社

彼女が姿を現すのは決まって冬で、見た目はずっと15歳。「僕」は「雪子」という名の不思議な少女と出会い、会話をし、二人はやがて一步を踏み出す…。

いずれ来る別れは寂しくても、全ての出会いに感謝したくなる、そんな一冊です。

(金安 麻子)

『辻まこと山とスキーの広告画文集』

辻まこと／〔画〕 秀山荘／編 山と溪谷社

昭和28年の開店以来、スキーと登山用具の店「秀山荘」の広告を手がけてきたのが画家の辻まことでした。自身も山を愛した辻のユーモア溢れるイラストや文章は、当時のスキーヤーや登山愛好家の胸を高鳴らせたに違いありません。昭和の香り高い広告の数々を眺め、冬山に思いを馳せてみませんか。

(山田 紀子)



イベントガイド（1月～3月） ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

1/24(金) 『オリンピックの身代金』 奥田 英朗／著

2/21(金) 『ヘヴン』 川上 未映子／著

3/28(金) 『泥流地帯』 三浦 綾子／著

【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室2 10:00～

子どもの本に興味がある方が集って感想等を語り合う会です。

3/12(水) テーマ「伝記絵本」

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

1/12(日) 「ライラの冒険」 (2007年 アメリカ) 113分 10:00～

新春映画まつり 「クラバート」 (2008年 ドイツ) 120分 14:00～

1/21(火) 「ニューヨーク、狼たちの野望」 (2008年 フランス) 97分

2/5(水) 「命のピザ」 (1992年 日本) 115分

3/7(金) 「スーパ・オペラ」 (2010年 日本) 119分

3/30(日) 「地下鉄のザジ」 (1960年 フランス) 93分

【特別図書整理期間に伴う長期休館のお知らせ】

2月に所蔵資料の一斉点検を行うため、長期休館いたします。これに伴い、1/27(月)～2/27(木)までの間、貸出点数を通常10点のところ、20点(うち視聴覚資料は6点まで)に増やします。

館名	休館する期間
中央	2/19(水)～2/28(金)
互尊・西・南・北	2/10(月)～2/15(土)
中之島・寺泊・栃尾・大河津	2/24(月)～2/28(金)

市内図書館と栃尾美術館の休館日

中央図書館	☎32-0658	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日(土日祝と重なった場合は開館) 特別図書整理期間 年末年始(12/31～1/2)
互尊文庫	☎35-7981	毎週木曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間 年末年始(12/29～1/3)
西地域図書館	☎27-4900	
南地域図書館	☎30-3501	
北地域図書館	☎22-7100	
中之島地域図書館	☎61-2165	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間 年末年始(12/29～1/3)
寺泊地域図書館	☎75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	☎0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	☎53-3005	
文書資料室	☎36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	☎53-6300	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ※展示替等による臨時休館あり 年末年始(12/28～1/3)

図書館ニュース

◆小林虎三郎について学ぼう！

来る3月22日(土)、平成国際大学教授・信州大学名誉教授の坂本保富氏をお招きし、ご講演をいただくことになりました。氏は、虎三郎の研究者で『米百俵の主人公 小林虎三郎～日本近代化と佐久間象山門人の軌跡』や『米百俵の歴史学～封印された主人公と送り主』等の著作があり、市内図書館でも所蔵しています。

虎三郎が残した米百俵の精神は、市民の誇りであり、図書館もその精神を大切にしてきました。

郷土の復興のために人材教育の大切さを説いた虎三郎。この機会に改めて学んでみませんか。

詳細は、市政だよりやホームページでお知らせします。



◆◆◆ あとがき ◆◆◆

和やかな雰囲気の中で行われているブックスタートを取材しました。中には、おじいちゃん・おばあちゃんも一緒に参加されているご家族もいました。寒い冬は暖かい部屋で、大人も子どもも笑顔になる絵本を楽しんでみてはいかがでしょうか。(河田 利美)

平成26年1月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住所 長岡市学校町1-2-2

編集員 長瀬 貴子 諏佐 志保 河田 利美
高橋 知香 高橋 真弓

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 株式会社 北越時報社